

せて離床を進めた。

⑤ 早期離床

創よりの浸出、体動後の抵抗の大きさ創痛、脈拍等に注意しながら体位変換をすすめ1名を除いて全員、1日目には側臥位をとらせた。又、B氏においては排尿困難がありベッド上での排泄に支障をきたしたため1日目でベッド上で坐位をとらせた。

体位変換→1日目、坐位→2日目、3～4日目には全員トイレまで歩行している。ベッドから最初おりて歩行する時は看護婦が附添い、一般状態並び創痛等を注意する。

⑥ 口腔内の清潔

麻酔薬の使用によって患者の呼気に悪臭あり、口腔内が不潔になり、乾燥している。感染症をひきおこさぬよう、口内炎などある場合は特に注意しうがいを行行する。口を開いて眠る人など舌が乾燥しひどい状態になっているのを見うけた。朝夕歯みがきを励行させ義歯などの管理にも十分気を配った。

⑦ 肺合併症の予防では術前のオリエンテーションが重要であり。今回私達は術後に重点をおくことが多かった。また研究においては問題となる要素をもった患者がいなかったこともあるが実際には術後の患者、その家族の協力、意欲的な面があったこと、そして患者と看護者との信頼感を得られたことなどから手術に対する不安感を少なくすることができた。

なお術前の指導とさらに1人1人にあった看護計画の必要性がいかほど大切であるかを知った。

眼 科

視力障害を伴う老人患者の オリエンテーションについて

発表者 三井高子
眼 科 一 同

I はじめに

平均寿命の延長により老人が増加し、それに伴い老人の罹患率が上昇しています。当眼科も例外でなく60才以上の老人がS43年25%、S44年33%、S45年36%と老人患者の病床占有率が高まってきました。老人は身体的機能の衰退により自らの身体を自由に活動させる事が困難になると共に、精神的には、老人性痴呆をきたし、それに加え当入院患者は高度視力障害をもち、看護展開時、患者にとってきわめて困難な事が多いのです。特に環境適応がしにくいため、不慣れな病院生活に少しでも早く適応できるよう援助する為、入院時オリエンテーション

を、その患者により理解できるよう、実際にその場所へ行き、使い方を実演しその他説明して行ってきました。しかし入院時オリエンテーション及び術前オリエンテーションがどの程度患者に理解されているか不明であるため、ここに調査し検討した結果を報告します。

II 調査期間及び調査方法

昭和46年5月20日より9月10日まで眼科入院患者中、60才以上の男女全員を対象とし、入院時オリエンテーションについては入院後4日目に、術前オリエンテーションについては術後1週間目に、患者に実演させながら、理解できたか否かを調査したものです。調査項目は入院時オリエンテーションについては最小限必要と思われる事を抜粋し、術前オリエンテーションについては、全項目に渡り調査しました。

III 調査結果

表1. 入院時オリエンテーションについての理解度

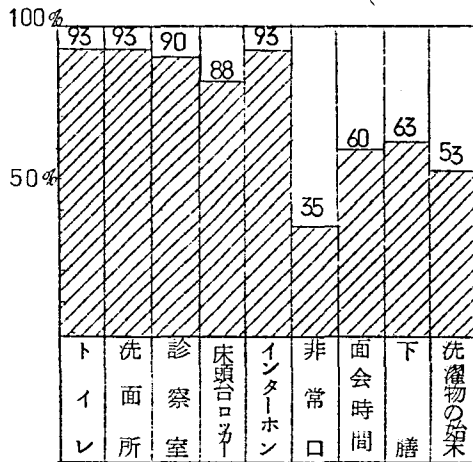


表2. 術前オリエンテーションについての理解度

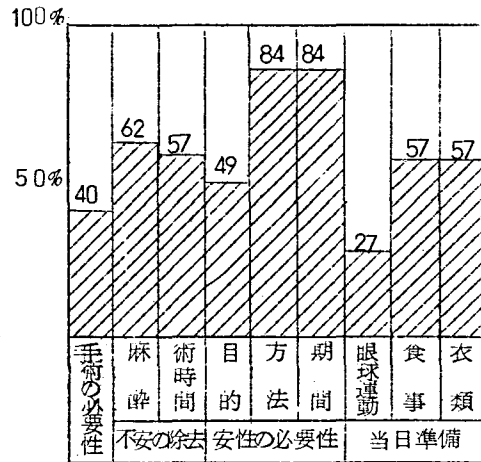


表3 男女理解度の差 男 女

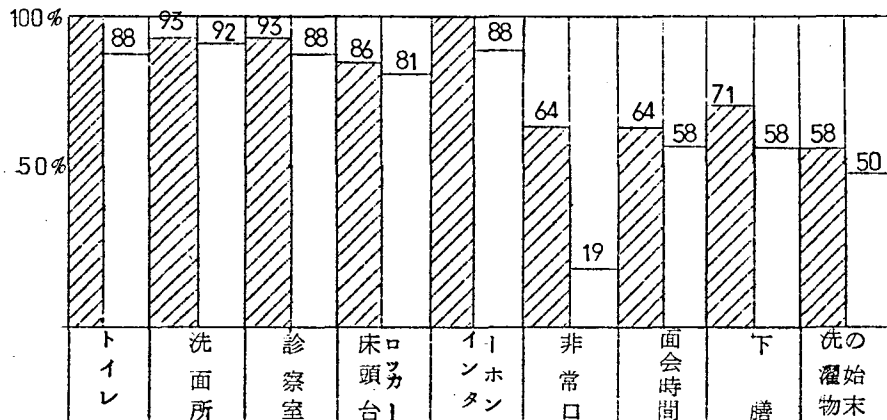


表4 視力差による理解度

	トイレ	洗面所	診察室	床頭台 ロッカー	インター フォン	非常口	面会時間	下膳	洗濯物 の始末
両眼指数以下	80%	70	70	60	90	0	30	30	20
" 以上	93%	93	90	83	93	35	60	63	53

表5 職業別(男性のみ)

	平均年齢	平均理解度
農業	65.5才	89%
自営	64.4才	94%
無職	72.0才	61%

表6 男女平均年齢

男	68.8才
女	69.4才

まず表を説明いたしますと、表1は入院時オリエンテーションについてトイレ、洗面所、診察室、床頭台及びロッカー、インターフォン、非常口、面会時間、下膳、洗濯物の始末について各々の理解度を示したものです。

表2は術前オリエンテーションについて手術の必要性、不安の除去、安静の必要性、当日準備の各項目を同様に行ったものです。

表3は入院時オリエンテーションに於ける男女の理解度の差を出したものです。

表4は入院時視力の悪い患者(ここでは両眼指数以下をとってあります)、とそうでない患者との理解度の差を出したものです。

表5は男性のみを対象とし、職業別に分けて差を出したものです。

以上の表より言える事は、表1より、100%理解されていなければならないインターフォンが93%の理解しか得られないという事、非常口35%、洗濯物の始末53%、面会時間60%、下膳63%と低い理解度を示している事です。

表2より、必要な事でありながら全般的に理解力が少ない様です。たゞ自分が守らなければならない最低の事として、又、患者同志で話し合おうで一番苦痛である長期安静については、かなり理解されている様です。

表3より、男女の理解度が明確に表われており、どの項を見ても女性が低い%を示しております。例えばインターフォン、男性100%、女性88%、非常口、男性64%、女性19%などとなっています。しかしその年齢を見ると、表6からも分るように男68.6才、女69.4才とほとんどその差はありません。

表4より、当然ではありますが、術前視力の悪い患者については非常に悪い結果が出ています。表5より、女性はほとんど無職であるため、男性のみを対象としてとって見ましたが、明らか

に差はあるのですが、その年令をも合わせみますと、職業の為であるか、年令の為であるかは、はっきり致しません。

Ⅳ 考 察

私達はこの調査を行うにあたり老人がもっと理解していないのでは無いかと思いましたが全体としては予想していたより良い結果が得られた様です。しかしそれで決して満足な分ではなくもっとより良い理解を得るため各々について次の様に考察しました。

1) 入院時オリエンテーション

○インターホン……目が見えない患者にとってインターホンは唯一の意志表示の場であるために完全に100%にしていかなければなりません。今迄は実際に手に取って教えても確認することがなく一回ではわからない患者もあったのではないかと思います。そこで実際に手に触れさせ押させ応答を試みることを徹底して行い尙も理解出来ない様な患者には繰返して行ってみます。

○下 膳 車……今迄は置く場所や向が一定で無かった為に患者も覚えにくかったと思います。そこで壁にテープを張り一定の位置を定め車は同じ造りのものを使用する様に致しました。その上で患者には歩数で覚えるよう直接指導してみました。

○非 常 口……視力の悪い老人にとって非常口の場所迄覚えるのは無理かとも思います。が部屋を出て右か左かを確認出来る位にしたいと思います。

○先 濯 物……老人に於ては家族が取扱う場合が多いので本人は知らなかったと考えられます。

○面 会 時 間 ……非常に難かしい問題で全科に共通の問題と思いますが良い方向に向って行く様な努力は各々がして行かねばならないと思います。時間そのものについてもまだまだ考慮する点が残って居ると思います。今後より多勢の目に触れる様に外来に於て入院時持参品の記入用紙にも面会時間を記入し徹底させていきたいと思ひます。

2) 術前オリエンテーション

先程も述べました様に安静についてはかなり良く理解されて居りますが、それは自分が一番守らなければならない事ですし、又患者同志の話題としてとり上げられることが多いため患者も予備知識として頭の中には入って居るからと思はれます。もう一つの理由としてこの調査は術後一週間目に行いましたのでその場限りの手術そのものについては急ぐ忘れてしまいその後ずっと自分で行って来た安静については良い結果が出たと考えられます。全体としては老人にしては手術についても解っていたのでは無いかと思ひます。

今後の問題点としては、最近異った術式がとり入れられ、それに伴い安静期間は短期化して

おります。それに加え高令で入院する患者がふえたため精神面での老人性痴呆等も併せてこれからのオリエンテーションを改善してゆきたいと思ひます。

3) 男女の差については女性は日常他力本願であることが大きい原因ではないかと思ひられます。以上各々について考察して参りましたが此の調査を行った時の患者からの要望の中に廊下に手すりがあったら。ベットがもっと低かったら。目が見えるようになってからもう一度場所の説明をしてほしい等と大変切実なる意見が出まして私達も大変参考になりました。

特に廊下に手すりという意見には以前より考へていたことですが高度の視力障害を伴ひしかも高令者にとって唯壁を伝へて歩くよりどれだけ支えになるかわかりません。又手すりに凹凸をつけて各部屋の号数診察室等を区別することも考へていますので是非取付けていただけるように病院側に再度お願いしてゆきたいと思ひます。

終りに日常忙しい病棟勤務に於て患者に何かを説明する場合、看護婦より患者への一方的な会話になってしまいがちでそれがどの位患者に理解されているか多くの場合把握されずにいます。特に老人に於ては返事はされて居ても理解されていない場合が多いのです。その意味からも今回の調査は有意義だったと思ひます。そして看護婦が行つてしまえば早くすむものでも患者自身のためにも根気良く教え励まし意欲を持たせなければなりません。これから此の様に一つ一つの看護行為の中で患者からの反応を直接確かめながらより良い看護を行つていきたいと思ひます。

麻酔科

くも膜下フェノール ブロック施行時に於ける体位への考察

発表者 溝上みつ
麻酔科一同

発表順序

I、はじめに

II、導 入 くも膜下フェノール、ブロック(P、B)について

A、くも膜下P、Bとは

B、必要物品

C、体 位……………表2

D、合併症

E、適 応

F、本院の統計……………表3